



MESSAGE NOTES

季節が変わらない時

ヨハネの福音書 4

ロイド フラハティ

多くの人は、新しいシーズン、新しい機会があると感じます。また、新しいシーズンだと告げられたにもかかわらず、昔のところから抜け出せないように感じる人もいます。

1. 井戸で独りきり

ヨハネの福音書 4:6 “そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れから、その井戸の傍らに、ただ座っておられた。時はおよそ第六の時であった。”

彼女は人を避けていました。それは、何故自分の人生がうまくいかないかを説明しなくてよいからです。

2. 空虚に生きる

人は傷ついたり失望したりすると、その感情を再び味わわなくてもよいように自分を守ろうとします。

c.s. ルイスはこのように書いています：

「全く愛するということは無防備にならなければなりません。何かを愛すれば、心は確実に苦しみ、おそらく壊れるでしょう。それを確実に無傷に保ちたいならば、心を誰にも、動物にも渡さないようにしなければなりません。趣味や小さな贅沢品で丁寧に包み込み、全てのもつれを避け、それを自己中心的な棺に安全に閉じ込めてしまえばいいのです。」

神様は私たちを孤立するように召していません。私たちは交わりを持つように造られています。

3. 予期せぬ良い知らせ

ヨハネの福音書 4:9 “そのサマリアの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリアの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」ユダヤ人はサマリア人と付き合いをしなかったのである。”

サマリアの女は孤立し、寂しいまま、自分の必要なものだけを手に入れてその場を去るつもりでいましたが、そこにイエス様がおられたのです！

ヨハネの福音書 4:28 “彼女は、自分の水がめを置いたまま町へ行き、人々に言った。29 「来て、見てください。私がしたことを、すべて私に話した人がいます。もしかすると、この方がキリストなのではないでしょうか。」

適用：もし、古い雨のシーズンから抜け出せないように感じているのであれば、目を開けて、たとえ雨の中でも、そこにイエス様が自分と共におられることを見ましょう。イエス様は私たちと共に居たいと願っています。